

土木学会創立 100 周年を心からお祝い申し上げます。

昭和 39 年、土木学会創立 50 周年の年に、京都大学土木工学科に入学した私にとりましては、国土交通大臣として 100 周年のこの日を迎え、ご挨拶できることは感無量であります。当時は、高速道路、新幹線、ダムなどの建設が進む高度経済成長時代であり、私も日本近代化のために土木の世界に身を置くことに心躍る思いでありました。

大学に入学して間もない講義で、土木工学は「シビルエンジニアリング」であり、公共的、社会的な仕事であると教わりました。橋をつくっても誰の作品ということではなく、世のため人のために黙々とつくり、喜んでもらう。私がやったとは言わず、誇りを持ちつつも静かに見守るのが「シビルエンジニアリング」だと言われ、その言葉に震える思いがいたしました。「黙々」という言葉こそが土木であり、私は今、国土交通大臣として、土木インフラを黙々と担っていただいている現場の人々を大事にし、それを推進する人間でなければならないと、我が身に言い聞かせているところであります。

我が国は災害が頻発する脆弱国土です。この脆弱国土を守っていくことが我々に課せられた大きな責務であり、そのために土木インフラは大きな役割を持っています。

「国」という文字は、「くにがまえ」に「王」として、「くにがまえ」が王を囲う漢字です。また旧字体の漢字には、「くにがまえ」が矛を示す権力・武器を囲う字があり、さらにまた、「くにがまえ」が「民」という文字を囲うものがあると学んだことがあります。治山治水は政治の基本と言われますが、「くにがまえ」を堅固につくることによって、人々の幸せと国家の営みをしっかりと守ることこそが重要であり、「くにがまえ」としての国家のインフラを堅固にする中に人々の幸せがあると考えます。

昨今、この土木の果たす役割は大きく、日本のみならず世界に先駆ける技術を持つに至りました。日本の土木技術、インフラ技術は、昨年開通したボスボラス海峡横断地下鉄の沈埋トンネルをはじめとして、世界に展開していく最先端の土木工学、シビルエンジニアリングであり、メンテナンスエンジニアリングであると確信しています。

100 周年を心からお祝いするとともに、この脆弱国土を守るために、益々重要な役割を果たす土木学会であることを、会員の一人として期待し、お祝いのことばといたします。

平成 26 年 11 月 21 日 国土交通大臣 太田昭宏